来る医療・介護のあり方に知恵を絞って行くことが大切だと思う。町長としてどう考えているのか。

町長▶その通りだと思っている。高齢者にアンケートをとったが、「住み慣れた地域で生活を送る」という希望者が1番多かった。皆さんと議論をして行きながら、進めていきたい。

基幹産業である酪農について

質問▶新規参入の農業法人に対する支援と、新規就農者への援助を、他町村以上に良いものにすべきではないか。

町長▶今後検討を進めていく。

斎賀　弘孝

・創生総合戦略について
・三者協定について

創生総合戦略について

質問▶創生会議議事録は広く町民に広報すべきでないか。

町長▶創生本部会議の議事録はない。創生会議議事録はまだ数回分未作成であり、早く公開出来るようにする。

質問▶会議においてメリットのある提案や意見があったが、具体的な話をなぜその場で進めなかったのか。

町長▶酪農ヘルパー増員の話もあったが、現状でも採算の厳しい中、事業運営が成り立つか検討が必要と考える。これまでの意見は、具体的な施策を進める中で参考にする。

質問▶農業生産法人による新規農場の規模が3百頭とあったが、そのスケジュールはどうなっているのか。

町長▶まだ具体的な規模も、建設スケジュールも決まってなく、現在策定中の工程表の中で、農協と協議しながら決めて行く。

質問▶工程表策定に、農協職員も一緒に入って準備をするのか。

町長▶それはないが、今はその法人化に向けて、そういうことで行きませんかという話をしている。少しでも前に進めるための方法を考えて行かなければならないと思っている。

質問▶3百頭の規模だから、創生会議ではやりましょうということになったのではないか。

町長▶何百頭という数字が走ってしまったことは反省している。しかし、それ以上の規模でないと雇用して収支を合わせるのは難しいとの、個人的意見は持っている。

質問▶創生会議進行管理において、外部有識者を含む検証機関により検証を行うとあるが、どう想定しているのか。

町長▶創生会議の皆さんにお願いして、検証していただく考えでいる。

三者協定について

質問▶深地層研究計画の研究期間20年程度では、いつ終了時期になると思われるか。

町長▶研究計画が示されたのは平成10年度で、研究開始は平成12年なので、そこから20年程度と考える。研究終了までの行程やその後の埋戻しについては、第3期中長期計画期間中の31年度末までに決定することになっている。

質問▶国のエネルギー基本計画に回収可能性の研究が盛り込まれ、予算が付いた時点で幌延で検証したいとの当時の野村理事の話だったが、その後相談はないのか。

町長▶日本原子力研究開発機構の改革計画に基づき、昨年9月に幌延深地層研究計画において取り組むべき必須の課題が示され、その課題の1つに処分概念オプションの実証があり、試験の一環として操業時において設置後に不具合が生じた人工バリアを置き換えするための技術実証試験を、原子力機構と原環センターが共同研究で行うと聞いている。

質問▶道北連絡協議会から道に、もし研究延長の提案があったらどうするかとの問いに、協定に基づく協議の対象になるので、1カ月前に事前協議すると、追認するような発言があり、以前から協定の範囲内で研究し、中途半端に終わらせないで欲しいと要請していた幌延町には良い知らせではないか。

町長▶単に協定書に関わる確認書の規定を申し述べたに過ぎないと推測する。

議会を傍聴しませんか

幌延町議会では、年4回（3月・6月・9月・12月）の定例議会と、議決を要する案件があった場合に随時開催する臨時議会が開会されています。

議会の開会日時、議案等については、その都度告知端末機を利用してお知らせしています。

どなたでも、お気軽に傍聴出来ますので、ぜひ、傍聴にいらしてください。